

歴史と文化の道

秋葉街道

秋葉街道とは、静岡県浜松市(旧春野町)にある秋葉神社へ秋葉詣をする街道のことで、信州から秋葉神社へ通じる道は総じて秋葉街道と呼ばれています。

当地域の秋葉街道は、高遠の場地籍から東高遠、長谷、分杭峠、大鹿、地藏峠、和田、青崩峠を越え、秋葉神社に通じる道で、生活物資や生産物の輸送路としても重要でした。

昔は集落ごとに秋葉講があり、毎年秋葉神社本祭の12月15日に当番が代参しました。長谷地区から代参に要した日数は6日で、寒く日の短いこの時期の代参は大変な苦勞があったようです。



鳥坂(突坂)
旧街道は、現在の長谷総合グラウンド駐車場トイレの後ろから湖底に向かって沈んでいますが、その大沢方面にかけての坂の名称。かつて馬車などが登る時は難所であったといわれています。

長城址
八人家に由来のある黒河内単人政信が、武田氏の侵攻に備えて築いた城。

熱田神社(国重文)
尾張熱田神宮の形影を迎えて産土神としたもの。本殿は宝暦9年から13年(1759~1763)まで5年がかりで改修されました。大工棟梁は高見善八。日光の流れをくむ特殊な建築手法と精巧な彫刻技術は見事です。

八人家
黒河内単人政信ら8名の武将は武田信玄に反抗し、信玄の娘の嫁入り先である木曾氏を攻撃しました。弘治2年(1556)信玄に捕らえられた8名は伊那狐島で処刑されました。黒河内の人々は8名の首を持ち帰りここに葬りました。

絵島の囲み屋敷跡
甲州藩士の娘であった絵島は大奥で出世し筆頭年寄りになりましたが、当時の人気歌舞伎役者生島新五郎と恋仲となり、二人はとがめを受けて絵島は高遠へ、生島は三宅島へ流されました。非持の火打平に最初の囲み屋敷があったとされています。

検校塚
一条天皇の鷹を見事に仕込んだ依田豊平は、非持の地に荘園を賜りました。豊平の墓石といわれています。

御山
後醍醐天皇の皇子宗良親王の御墓とされています。頂の中央に円形の塔があり、十六弁の菊花紋章の下に「尊澄法親王」と刻まれています。

黒河内・大揚寺下



大明神
大明神はこの谷の入口として、また駒ヶ岳の一合目として大切な所。かつては鳥居が建っており、長谷地区では「一山講」という東駒ヶ岳を信仰の対象とする山岳信仰が盛んであったことから、特別な意味をもった場所と思われる。

非持

代参の話 黒河内黒川地区 長谷村誌より
「代参者は12月13日早朝出発し、分杭峠を越え鹿塩を通り、地藏峠を越え上村野宿の「助作」という旅籠に泊り、翌14日は遠山郷を通り青崩峠を越えて水窪宿に泊まった。翌15日は秋葉山の裏から登り、秋葉神社に参拝し「三尺坊」という宿坊に泊まり、この泊まるのを「おこもり」といった。翌16日直ちに帰路についた。往きと同じ水窪で一泊し、17日は程野で一泊し18日に黒川に帰った。18日の夜は全員で代参者を組頭の家で迎え、6日間の労をねぎらい、各自お札を頂いて家に帰り、神棚に祀って灯明をあげ、それぞれ我が家の安泰を祈ったという。」(明治から大正頃の話)

溝口の道標
「右むら」とは溝口原集落のこと。この標識は以前溝口バス停前にあったものが、道路拡張によって郵便局前へ移転されました。

古道 秋葉街道

伊那市長谷総合支所 産業振興課
〒396-0402 長野県伊那市長谷溝口1394
Tel.0265-98-3130 Fax.0265-98-2029

写真/街道沿いに佇む白衣観音 撮影/中山秀幸